

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600028		
法人名	株式会社 新宅組		
事業所名	のぞみの里		
所在地	長野県木曾郡木曾町福島5569番地		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果市町村受理日	平成23年5月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092600028&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の皆さんとのつながりを大切に考えて支援している。木曾郡は広域であるが南部は南木曾町からも利用いただいている。木曾町は南木曾町と松本市との中間地点という立地もあって松本市に住まわれているご家族の方にも気軽に面会や外出に出かけていただいている。利用者を二人に限定した小回りの効く個別のレクリエーション外出を計画している。伊那市や高原へのドライブなど個人の希望に合わせた内容としている。地域の皆さんにも広く広報して講師をお招きした講演会も開催した。今年度は夜間の地震を想定した防災訓練を地域の方々の協力を頂いて実施できた。ゼッケンをかけるなど見て理解していただきスムーズに避難できる工夫をしている。

木曾川に南側が面している3階建ての新築の建物の2階部分がグループホーム、1階部分が併設の小規模多機能「のぞみの里」である。ホームは昔の宿場町の面影の残る住宅街の中にあり、お散歩にでかけると、近所の方の顔も伺える。事業所では、地域とのつながりを大切にされ、日頃のつきあいや、夜間の防災訓練では、近隣の方や地域の様々な方の協力を得て、実施されていた。「のぞみの里ニュース」や入居者個々にむけてのお便り、病状などの変化に応じてのお電話など、家族に対しての報告はきめ細やかに対応されている。お便りを始め、ホームのパンフレット、重要事項説明書も、わかりやすく工夫されている。昼食後には、入居者の方々がゆったりと穏やかな笑顔で職員と談笑されている姿を拝見した。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活で地域の方々と共にあることを考えている。自立支援の考え方をもとにその人らしさを活かしてできることをしている。	理念は、玄関、フロアの入り口に掲示されており、職員にも配布されている。事業所のパンフレットにも載せており、事業所の基本姿勢とそれぞれの役割が明確に書かれており、わかりやすい。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元中学との交流や地域の行事への参加など季節ごとに参加してきている。	散歩時には、近所の方に声をかけていたり、近所の方の具合が悪かった時は、職員がかけつけてお手伝いしたこともあった。中学生の体験学習、教員、医療関係者などの研修も受け入れている。町文化祭には作品を出品展示した。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の協力をいただいた合同の防災訓練の実施。特徴をゼッケンにしたり理解を求めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な動向の報告から事故・ヒヤリハットについて意見を求めている。防災については専門的立場からの意見もいただき活かしている。	会議には家族会代表、老人クラブ、地域包括、地元住民代表などの委員と、会議内容によって臨時の委員(防災訓練時には消防担当者など)にも出席してもらっている。事業所からの要望、報告だけでなく、会議での委員からの意見も運営に反映され、会議録などの記録も充実している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に広域連合からも参加いただいている。主催される研修にも参加している。	木曾町だけでなく、入居者の居住地である木曾広域連合とも、連携を密にとり、困難な事例には相談して、助言を得ながら、協力して介護に活かしていると伺った。	

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・居室に施錠はしていない。徘徊などにも近くから見守るなど家族への報告もそのつどしてきた。	玄関にチャイムを設置し、夜間は防犯の面から施錠している。昨年は、徘徊する入居者の入居時の変化や事故を通して、身体拘束をしないケアについて実践から学びにつなげ、職員内でも十分に話し合い、体制の改良に繋がり、良い学習の機会であったと伺った。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の異変など定期的な入浴の際に確認してきた。毎日の申し送りでも気になる点があれば報告と確認に努めて来た。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などの積極的な取り組みや学習会はできていなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別での説明や必要な書類を整備して理解をいただきながらすすめてきた。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時での話し合いなどから、毎日の申し送りや月に2回の管理者会議での報告や2ヶ月に1回の運営推進協議会などを通し相互の情報交換をしてきた。	家族には、管理者が利用者の様子を毎月お便りで個々にお知らせしている。家族の来所時や、遠方の方には電話などで、話を伺うようにしていると伺った。家族から出された意見、要望等は、改善したり運営に活かしたりするように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや定期的なカンファレンスを通じてあがった提案や要望などを管理者会議で反映に努めて来た。	運営に関する意見や提案を、管理者は聞く姿勢を持っているので、言いやすいと伺った。更なる事業所の向上のためには、限られた人員体制の中で、研修方法の時期やあり方、内容の工夫が求められている。	

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>厳しい経営環境の中で、できるだけ条件整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望を受け入れ研修等の機会を与えている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム宅老所連絡会に加入し情報交換に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>思いの傾聴を基本に携わっている。家族との連絡も予め了承いただき電話できる環境を整えてきた。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族に伺ってから日常の支援を進めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ケアカンファレンスを定期的に行い見極める努力を重ねてきている。</p>		

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴を基本に寄り添える努力をしてきている。伺ってから日常のお手伝いしていただける事などお願いしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を第一に支援をすすめている。共に支える事を基本に考えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人が時々利用者の要望で買い物等につれていくことがある。又、事例として同窓生と家族の同意を得て、同窓会への参加の支援をさせていただきました。	同窓会への参加の援助にあたっては、段階を追って計画を立てて、準備をされている。事前に同窓生に来所してもらい、理解を得て、家族にも了解を得て実施されている。参加によって、同窓生の来所にもつなげることができ、本人の意欲にも繋がったと伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	具体的な例としてはフロアでの座席の配置など良い関係が保てるように配慮してきた点があげられる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院から他施設移行に際して面会や話し合いの場を設けるなどしてきた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に伺いながら進めてきた。本人にも希望や思いを伺ってカンファレンスしてきた。	入居時には、お宅を訪問し、本人や家族にお話を伺っている。入居後も、日々の記録等やカンファレンスを通して、検討している。	

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話題の中で傾聴させていただいている。されてきた仕事や子供さんについてなど。新規の方からもできるだけご家族から情報をいただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて気づきなどスタッフからの報告を元に把握に努めてきた。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的開催している。変則勤務であっても共有できるノートを活用して継続して支援していけるよう心がけている。	介護計画は計画作成担当者が作成し、ケアカンファレンスで検討して作成している。カンファレンスには、全員が参加はできないので、ノートなども活用されているが、限界があり、それぞれの意見等を反映した、現状に即した計画作成が難しいようである。	事業所では、担当者制をとっているため、担当者を中心に計画作成に入ってもらい、3ヶ月ごとに重点的に目標を絞って見たら、マンネリ化を防ぎ、また介護員の質の向上に繋がると思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上記のノートに自由に意見や気づきを記録できる欄を置いている。継続して支援できるように働きかけている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事例としては同窓会への出席の支援があった。家族の要望にも柔軟な対応が出来るよう配慮してきた。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中学の職場体験など受入れと文化祭や手作りおやつへの参加など無理のない交流に努めてきた。		

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>4医療機関と協定を継続している。家族の希望で隣町での医院にもつながりをもって、インフルエンザの予防接種も近隣の医院に来ていただき実施されている。家族対応の働きかけにも新規の方から適宜行っている。</p>	<p>かかりつけ医の選択は、家族の希望を尊重し、新規の方には定期受診の対応をお願いしている。体調変化に伴う受診は、管理者が家族に連絡してから、職員が付き沿い、受診支援している。入退院時には、サービス担当者会議に職員が参加し、連携を図っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回勤務の看護師や常勤の准看護師に身体・精神面の相談をしながら支援している。看護介護の連携が図られている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>大腿骨の骨折での入院の際には情報の交換に病棟の看護師及び担当医師と相互にしてきた。医療連携室を通じて今後について社会資源を含め話あってきた。検査入院の際には連絡・調整をしてきた。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医師から終末期について指示のある方は、定期的なカンファレンスでの確認を職員間でするとともに家族とも共有し医師にもケアプランを提示して連携を図ってきた。</p>	<p>重度化や終末期にむけての指針は作成されており、老衰の方を見送った経験もある。昨年は施設の職員体制の限界、病状などから、家族、施設、医療関係者とも十分な話し合いを経て、家族が納得して、他施設へ紹介となった事例があった。その事例から、事業所としての方針も変更し、検討中である。</p>	<p>事業所としての力量の見極めは、入居者の状況、家族、職員の状況、医療関係者の協力などによっても、その都度、変化してくる。他の施設の見学、研修を充実させて、「のぞみの里」の現状に即した方針を事業所全体で再考して欲しい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルは用意されている。研修や訓練の機会を今後も継続して計画する必要がある。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の方々の協力をいただいた合同の防災訓練の実施が夜間の地震想定で行われた。歩けない人の階下への避難誘導は今後も課題としてある。</p>	<p>施設内での訓練は、事ある度に、カンファレンス等で確認されている。地域の方々の協力を得ての合同の防災訓練も夜間と昼間に実施している。反省等からも課題が出され、改善に努めている。スプリンクラーも設置され、通報時の課題も明らかになり、早急に改善されている。</p>	<p>施設面、地域との協力とも頑張っておられるが、マンネリ化を避けるためにも、いろいろな状況を想定し、訓練を引き続き、実施して欲しい。</p>

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を尊重し、傾聴に心がけ言葉かけにも最善を尽くしてきた。	気持ちに寄り添って、日々の介護に腐心されている様子を伺った。現状に満足されず、定期的にカンファレンス、または研修などで、振り返りの機会を設けることは、よりよい介護につながると思われる。	言葉かけや対応は、振り返りの機会が重要である。研修を計画的に実施することが、日々のケアの向上につながります。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴につとめ思いを受けとめる対応をしてきた。個別に外出の内容を希望から取り入れたり食事也希望に叶うように配慮してきた。毎日の飲み物もうかがっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の過ごしやすい環境作りを継続してきた。買い物外出の機会を思いに沿って計画してきた。日常生活でお手伝いしていただく場面でも無理な依頼はせず一人ひとりの状況を見て伺いながらすすめてきた。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容店・美容院にて髪のカットなどできるように支援してきた。こちらに出張していただく機会もあった。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活歴に調理の仕事をされてきた方も複数いらっしゃって一人に偏らない準備や片付けの機会が持てるように配慮してきた。味見をしていただき教えていただくこともしてきた。	事業所の畑にあるものを献立に組み込んだり、食材と一緒に近くまで買い物に出かけることもある。食事の前には、今日のメニューを入居者に読み上げてもらうなど、一人ひとりの力を活かす工夫がされていた。外食の機会も12月には3組個別に出かけたり、事業所全体で外に出て食べる機会を設けるなどしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿の方へのメニューの配慮や塩分制限のある方への配慮をしてきた。野菜を多く取り入れた献立を提供してきた。本人に合った量を探って記録をもとに提供してきた。		

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアを支援している。夜間は義歯をお預かりして漬け置き洗浄をしてきた。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>自立支援の考え方でその方に合った排泄用品を使用していただいていた。洩れの頻度が高くなってきた時などリハビリパンツの導入に際しても本人に履き心地をうかがったり無理のない支援をしてきた。</p>	<p>リハビリパンツ使用の方が半数ほど、夜間の誘導が3名ほどである。排泄の表の記入も3人ほどで、職員がさりげなく、詰め所にて記入されていた。排泄後の手洗いも、さりげなく誘導していた。パットの選定にあたっては、いろいろなパットを試しながら、専門家の助言を得ながら選定したこともあったと伺った。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>野菜を多く取り入れたメニュー作りをしてきた。記録をつけて把握につとめてきた。毎日の体操も継続支援してきた。医師への相談も状況によってしてきた。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>一日おきの入浴ができるように支援している。その都度本人にうかがって無理のない入浴に努めて来た。肌の状況には連日清潔が保てるよう配慮してきた。</p>	<p>入浴は曜日に関係なく、拒否されない限り、1日おきである。拒否される方も、その方に合わせて、浴室に誘導したり、いろいろ試みている。肌荒れに関し薬剤師さんに相談し、木酢液を試用中である。浴室、脱衣所は広く、二つの浴槽があり、片方にはリフトが設置されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>午睡の必要な方への支援をしてきた。状況によってはベッドで休んでいただく配慮もしてきた。シーツ・包布の定期的な交換も行っている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人記録に処方箋を添付しており、スタッフ全員が確認と理解できるようにしている。夜勤者が翌日の薬を仕分けして服薬の際は職員が二人で目視確認している。</p>		

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴や役割を把握することに努め簡単な野菜刻みや洗濯物を干すお手伝いなど適宜お願いしている。一人に偏らないように配慮する点も考えている。生け花など趣味の機会も提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など日差しのある暖かい時間帯に希望を聴いて近隣の散歩にお誘いし、出かける支援をしてきた。家族の了解を頂いて個別に買い物や昼食外出できるように支援してきた。	天気の良い日は、散歩に出かけることも多く、職員がついて出かけている。食べたいものなどを買いに行くなど、外出は自由にしている。本人の希望もあり、家電などを伊那方面まで買い物に出かける支援もしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理可能な方には外出時、本人の所持している金銭から支出していただいている。こちらの預かり金より支出するか確認も決めていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については制約はしていない。希望のあるときにかけていただいている。電話番号が本人が不明であってもお手伝いして話せる支援をしている。家族の全面的な協力をいただいている方もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾など共用の空間で感じ取れるように工夫してきた。居室や台所など自然な採光が取れるよう調整などしてきた。	壁には利用者の作品や、天井には節分の繭玉がつるされていた。また、皆で出かけた温泉での集合写真が貼られ、居室は明るく、共有のホールに面している。床暖房のクッションフロアで、バリアフリーの造りで、トイレを示す張り紙も数種類貼っており、個々の方の認識にも配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室も自由に使えるようにしている。ソファーや共用のフロアでのテーブルの配置など利用者の座りやすい環境を整えてきた。		

外部評価結果(グループホームのぞみの里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族と本人の希望で家具など置いていただいている。レイアウトも工夫している。	各居室の引き戸は、デザインが個々に違い、目印となるような物もかけられている。居室には、洗面所が設置され、食後の歯磨きは、見守り、声掛けされながら、さりげなく手伝ってもらったり、各自のペースで動かれている姿を拝見した。部屋には、備え付けの棚やベッドもあるが、持ち込まれたタンス等も置かれていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉はそれぞれ格子であったりストライプであったりマス目になったり区別しやすくなっている。トイレの電燈は感知式となっている。		